

INMU White Paper ver1.0

笑われるくらいの夢を、本気で追いかける。

1. イントロダクション: ミームコインの常識を破壊する

小さな目標で満足するミームコインに、未来はない。

ミームコインを買うなら、笑われるくらい大きな目標と、1000倍を超える可能性を語るべきではないだろうか。小さな目標で満足して、どこへ向かうというのか。

INMUは違う。

私たちは独自のエコシステムを築き、「脱ミームコイン」を目指す。単なる一過性のジョークではなく、実用性と社会的意義を持ち、持続可能な成長を実現するプロジェクトだ。

これは野望だ。馬鹿げた、しかし本気の野望だ。

2. ミームコインが抱える3つの致命的な問題

成長を止める壁は、すでに見えている。

多くのミームコインが失速し、消えていく。その理由は明確だ。ミームコインの価格向上を阻害する、3つの大きな要因が存在する。

2.1 新規保有者の枯渇

パイの奪い合いでは、これ以上伸びない。

既存の仮想通貨ホルダー同士でのパイの奪い合いでは、それ以上の成長は望めない。AコインからBコインへ資金が移動するだけでは、市場全体は拡大しない。

新しい市場、新しい層への訴求が必須だ。仮想通貨に触れたことのない人々、別の関心を持つコミュニティへのリーチがなければ、成長は頭打ちになる。

2.2 競合類似コインの台頭

独自性なきコインは、埋もれて消える。

無数のミームコインが毎日のように誕生している。独自性をアピールしなければ、その中に埋もれて忘れ去られる。

模倣可能なコンセプト、単発のミームだけでは、次の類似コインに取って代わられる。明確な差別化要素、他が真似できない複合的なエコシステムが必要だ。

2.3 飽きと停滞

物語が止まれば、コミュニティは崩壊する。

特にミームコインは物語性が命だ。初期のミームだけでは、すぐに飽きられる。活動が止まり、新しい展開がなければ、コミュニティは一気に崩壊する。

継続的な物語の供給、毎週、毎月と続く新しい展開、そしてコミュニティが一体となって楽しめる仕掛けが不可欠だ。

3. INMUの野望:810M MCへの道

馬鹿げているからこそ、挑戦する価値がある。

INMUは3段階の価格目標を掲げる。現実的?いや、馬鹿げている。だからこそいい。

3.1 Phase 1: 50M MC突破

114514コインのATHを超える

114514コイン(INMUのルーツとなった文化を持つコイン)の過去最高時価総額、約50M MCを突破する。これは単なる通過点だ。

3.2 Phase 2: 450M MC突破

PONKEのATHを超える

著名なミームコインPONKEの過去最高時価総額、約450M MCを突破する。ここで多くの人が「十分だ」と言うだろう。だが、私たちは止まらない。

3.3 Phase 3: 810M MC達成

野獣先輩(やじゅう)= 究極目標

810(やじゅう)= 野獣先輩。日本語の語呂合わせで、INMUの文化的ルーツである野獣先輩を表す数字だ。

810M MC、これがINMUの究極目標だ。

笑われるくらいの目標だからこそ、挑戦する価値がある。

4. INMUのルーツ: 野獣先輩という文化

日本のネットカルチャーから生まれた、世界的ムーブメント。

INMUコインは、野獣先輩と呼ばれる日本のインターネット文化から影響を受けて誕生した。

4.1 野獣先輩とは

日本のインターネット文化が生んだ伝説

野獣先輩は、日本のインターネットコミュニティで長年にわたり愛され、無数のミーム、二次創作、ネタが生み出されてきた文化的現象だ。その影響力は計り知れず、今なお新しいコンテンツが日々生まれ続けている。

INMUは、この文化的背景を持つことで、単なるコインではなく、物語と歴史を持つプロジェクトとなった。

4.2 DEVの旅路

何も知らない状態から、どハマりするまで

INMU DEVも、最初は野獣先輩について何も知らなかった。しかし、コミュニティの詳しい人々と交流する中で、その奥深さ、面白さ、文化的な豊かさに触れ、今では完全にハマっている。

そして、気づいたのだ。

世界には、他国には知られていないが、めちゃくちゃ面白いネット文化やサブカルチャーが無数に存在するはずだと。それを語りたい人と、知りたい人がいるはずだと。

INMUは、そのマッチングの場にもなる。

5. INMUエコシステム:3つの柱が織りなす成長の循環



寄付、TAINME、コミュニティ交流。すべてが繋がり、互いを強化する。

INMUのエコシステムは、3つの柱で構成される。

1. 寄付活動: 新規市場の開拓と社会的意義
2. TAINME: ギグワークによる成長加速
3. コミュニティ交流: 文化を超えた繋がり

この3つは独立しているのではない。すべてが有機的に繋がり、互いにプラスの影響を与え合う。

寄付活動により新規層にリーチし、新たなホルダーが増える。その中からTAINMEワーカーが生まれ、低コストで高品質な広報が実現する。そしてコミュニティ交流により、ホルダーは離脱せず、長期保有者となる。

価格が上昇すれば、寄付規模が拡大し、TAINMEへの報酬も魅力的になり、コミュニティはさらに活性化する。

この循環が、INMUを成長させ続ける。

6. エコシステムの柱①: 寄付という新市場開拓

誰も手を出していない、白地がある。

6.1 毎週金曜日の動物保護寄付

永続的な新規層へのリーチ

毎週金曜日、INMUは海外の動物保護団体へ寄付を行う。この活動は一時的なキャンペーンではなく、永続的に継続する。

寄付の度に、レポート、寄付先の状況、活動内容を詳細に公表する。これにより、動物保護に関心を持つ人々、社会貢献活動に共感する層へ、継続的にリーチできる。

6.2 未開拓市場への訴求

仮想通貨ホルダー以外へ

これは既存の仮想通貨コミュニティ内でのパイの奪い合いではない。

「海外の動物保護」「社会貢献」に関心を持つ層という、他のミームコインが手を出していない白地市場へのアプローチだ。常に新しい顧客層にリーチし続けることで、新規保有者の枯渇問題を解決する。

6.3 寄付が生む物語

毎週、新しい展開が生まれる

毎週金曜日の寄付報告は、定期的なコンテンツ供給となる。

価格の上下だけでなく、「今週はどの団体に寄付をしたのか」「どんな動物たちが救われたのか」という物語が、毎週生まれ続ける。

これは飽きと停滞を防ぐ、強力な仕掛けだ。

6.4 最終形態：影響力の確立

動物保護界の中心的存在へ

最初は小規模な寄付でも、価格上昇に伴い規模は拡大する。

やがて、INMUからの寄付が大規模化し、レポートが注目を集める。私たちの寄付がきっかけで、他からも寄付が届き始める。

INMUが動物保護界でのハブ的存在、影響力のあるプレイヤーとなる。

「動物保護といえばINMU」という認知の確立。これが最終形態だ。

7. エコシステムの柱②：TAINME革命

世界を変えるギグワークプラットフォーム

TAINME - Gig Work, Powered by INMU

7.1 従来の外注システムが抱える問題

高コスト、低品質、詐欺リスク

ミームコインの運営が各種宣伝活動を外注する場合、以下の問題に直面する:

- ・高額な仲介手数料
- ・クオリティのバラつき
- ・コインを知らない外部業者への説明コスト
- ・前金詐欺リスク
- ・低クオリティでも支払い義務

これらの問題により、運営の時間もお金も奪われ、広報活動が遅れ、機会を逃す。

7.2 TAINMEによる解決

ホルダーが働く、という革命

TAINMEは、INMUホルダー専用の招待制ギグワークプラットフォームだ。

- ・INMUホルダーが働く: コインを理解し、応援する人材だけが参加
- ・説明コスト削減: 既にINMUを知っているから、説明は最小限
- ・仲介手数料ゼロ: 運営が直接募集、中間マージンなし
- ・完全後払い(INMU払い): 成果物を確認してから支払い
- ・修正対応可能: 納品物の確認、修正依頼が完全に管理できる

外部の無関心な業者ではなく、INMUの成功を願う人々が働く。高いモチベーション、深い理解、そして愛情を持って仕事をしてくれる。

7.3 対応可能な業務

各種投票キャンペーン、SNS投稿・拡散、ミームイラスト制作、宣伝動画制作、多言語翻訳、異業種コラボレーション交渉、そしてリサーチ業務。

7.4 リサーチ業務の可能性

世界中の未知のプラットフォームへ、同時に訴求する

X(旧Twitter)だけでは、宣伝活動が頭打ちになる。東南アジア、欧米、各地域には独自のSNS、動画サイト、掲示板、Telegramチャンネルが存在する。

日本の運営一人では、これらを発見し活用することは不可能だ。

TAINMEがあれば、世界中のホルダーがリサーチワーカーとして参加できる。

各国の現地ホルダーが、その国で影響力のあるプラットフォームを発見し、訴求戦略を立案し、現地言語でコンテンツを作成し、拡散する。

これが同時に世界中で展開される。これこそが真のグローバル戦略だ。

7.5 人を救う使命

経済的弱者へのセーフティネット

TAINMEには、もう一つの重要な使命がある。

世界には、1日10ドル、1ヶ月300ドルで生活している人々がいる。怪我や病気で外で働けないとき、収入が途絶える恐怖。

TAINMEでは、スマホ1つで5ドル、10ドルを稼げる仕事がある。

成果物が承認されれば、順次すぐに支払われる。月末まで待つ必要はない。

「子供にプレゼントを買えました」「薬が買えました」「家族の食費が助かりました」

この1件1件の感謝の声が、物語となる。

運営とホルダーに、強烈なモチベーションを与える。自分たちの活動が、実際に人の役に立っている。他のコインでは類を見ない、リアルな社会的インパクト。

7.6 価格上昇の好循環

TAINMEで低コスト広報が実現すると、訴求活動が加速し、新規ホルダーが増え、価格が上昇する。

価格が上昇すれば、INMU払いのため、同じ予算でより多くの仕事を依頼できる。さらに広報が加速し、さらに価格が上昇する。

節約した運営費は、寄付活動に充当される。寄付規模が拡大すれば、より多くの新規層にリーチできる。

この好循環が回り始めると、加速度的に成長する。

7.7 最終形態: グローバルプラットフォームと企業コラボ

数名から、世界中の数万人へ

最初は少人数から始まるTAINMEも、やがて登録者数・登録国数が増加し、グローバルプラットフォームとなる。

INMUは仮想通貨だからこそ、通貨の垣根を超えて支払い設計が容易だ。仮想通貨ミームコインであることの恩恵を最大に活かす。

世界中の「お金を稼ぎたい人」が集まり、全員が仮想通貨払いに精通している巨大なワーカープールが形成される。

すると、企業が注目し始める。

グローバル企業のマーケットリサーチ、多言語翻訳、SNS拡散キャンペーン、動画制作、カスタマーサポート。世界中に分散した、即座に動けるワーカーを、低コストで活用できる。

企業コラボレーションが開始され、運営にはPR報酬・手数料収入という新たな収益源が生まれる。

INMUの売却に頼らない、財務力が安定する別の収入の柱。この収益で、さらに大規模な寄付が可能になる。

8. エコシステムの柱③: 文化交流プラットフォーム

世界のサブカルチャーが出会う場所。

8.1 世界には未知の面白さが溢れている

野獣先輩のような文化は、世界中に存在する

野獣先輩文化が日本のインターネットで育まれたように、世界各国には、その国独自のネット文化、サブカルチャー、ミーム、笑いのツボが存在する。

しかし、それらの多くは言語の壁、地域の壁によって、他国には知られていない。

きっと、めちやくちゃ面白いものがあるはずだ。

8.2 語りたい人と、知りたい人

各国のネット文化、サブカルチャーのマッチング

自分の国の面白い文化を、世界に紹介したい人がいる。

他の国の知らない文化を、知りたい人がいる。

INMUコミュニティは、そのマッチングの場となる。

各国のホルダーが、自分の国のネタ、ミーム、サブカルチャーを紹介し、他の国の人々がそれを楽しむ。そして、自分の国の文化も紹介する。

この相互交流が、コミュニティに深みと多様性をもたらす。

8.3 INMUの強み: 強固なコミュニティ

交流が盛んだからこそ、実現できる

INMUの最大の魅力は、コミュニティが強いこと、交流が盛んなことだ。

(2026年2月4日時点で)Telegramでは2000名以上、Xでは4000名以上のフォロワー、Xコミュニティでは1万名以上が参加している。そして、彼らは単なる数字ではない。実際に交流し、楽しみ、盛り上がっている。

この基盤があるからこそ、文化交流プラットフォームとしての機能が成立する。

8.4 多国籍交流が生む離脱率の低下

楽しいコミュニティには、人が残り続ける

価格が下がったとき、多くのコインではホルダーが一斉に離脱する。なぜなら、価格以外に繋ぎ止めるものがないからだ。

しかし、INMUは違う。

毎週の寄付報告、TAINMEでの仕事、そして各国の文化交流。価格以外の楽しみ、意義、つながりがある。

楽しいコミュニティには、人が残り続ける。

これが離脱率の低下、長期保有者の増加、そして価格の安定につながる。

8.5 最終形態：世界最大級の多文化交流コミュニティ

世界中のホルダーが、自国のネット文化を紹介し合い、言語の壁を越えて笑いと発見が共有される。

日本の野獣先輩文化を知ったDEVのように、世界中の人々が他国の文化にハマる。

INMUコミュニティは、世界最大級の多文化交流プラットフォームとなる。

9. 3つの循環が織りなす、自律的成長エコシステム

すべてが繋がり、すべてが互いを強化する。

【寄付の循環】

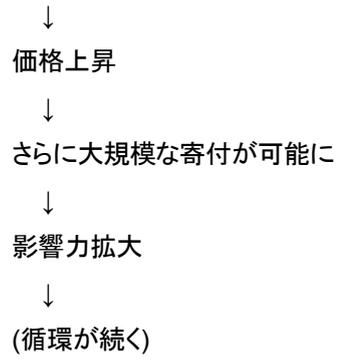
寄付活動

↓

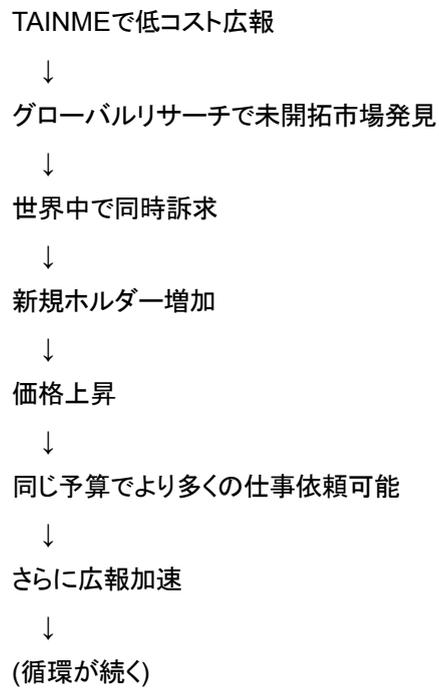
動物保護コミュニティへの認知

↓

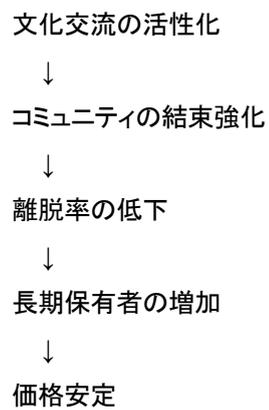
新規ホルダー獲得



【TAINMEの循環】



【コミュニティの循環】



↓
新規参加者も安心して参加
↓
(循環が続く)

そして、3つの循環が互いに影響を与え合う。

寄付で新規層が入る → TAINMEワーカーが増える → コミュニティが活性化する

TAINMEで節約 → 寄付が拡大する → 感謝の声コミュニティを盛り上げる

コミュニティが強固 → TAINMEに優秀な人材が集まる → 広報が成功し寄付も拡大する

これが、INMUの自律的成長エコシステムだ。

10. INMUの進化の道筋

初期段階から最終形態まで

10.1 初期段階(2026年上半期)

運営単独での活動

- ・小規模寄付の開始
- ・TAINME試験運用
- ・コミュニティ形成
- ・文化交流の萌芽
- ・50M MC達成(Phase 1価格目標)

10.2 成長段階(2026年下半期)

価格上昇とエコシステム拡大

- ・寄付規模拡大

- ・TAINME国際展開(複数カ国)
- ・グローバルリサーチ業務本格化
- ・複数言語コミュニティ形成
- ・各国サブカルチャー交流の活性化

10.3 確立段階(その後)

影響力の獲得

- ・大規模寄付の実現
- ・動物保護界での認知確立
- ・TAINME登録者数の大幅増加
- ・企業コラボレーション開始
- ・PR報酬収入の柱確立
- ・世界的な文化交流ハブとしての地位確立
- ・450M MC達成(Phase 2価格目標)

10.4 最終形態(その後)

自律的成長エコシステムの完成

- ・INMUの寄付がきっかけで他からも寄付が集まる
- ・動物保護界のハブ的存在
- ・TAINME = グローバルギグワークプラットフォーム
- ・世界中の企業が利用
- ・運営の財務基盤が完全に安定
- ・INMUトークン価値が実用性で支えられる
- ・世界最大級の多文化交流コミュニティ
- ・810M MC達成(野獣先輩 = 究極目標)

11. 他のミームコインとの決定的な違い

	一般的なミームコイン	INMU
🎯 訴求範囲	仮想通貨コミュニティ内のみ	動物保護、社会貢献層へも展開
📣 広報手段	X中心、高額外注	TAINME活用、低コスト、グローバル同時展開
📖 物語性	初期のミームのみ	毎週の寄付報告、感謝の声、文化交流
♾️ 持続性	話題が尽きると崩壊	3つの循環が永続的な話題を提供
👥 コミュニティ	投機目的のみ	社会的意義と文化的つながりを共有
🔒 独自性	模倣可能	複合的エコシステムで模倣困難
💰 収益源	トークン価値のみ	企業PR報酬という別の柱

INMUだけが持つもの：

- 🌐 永続的な新規市場開拓(動物保護界)
- ⚙️ 実用的収益源(企業PR報酬)
- ❤️ 社会的貢献(寄付、文化支援)
- 📖 物語の自動生成(毎週の寄付、感謝の声)
- 📈 持続的な価値向上(循環エコシステム)
- 🤝 グローバルな文化交流(TAINME活用)

訴求範囲

一般的なミームコイン: 仮想通貨コミュニティ内のみ

INMU: 動物保護、社会貢献層へも展開

広報手段

一般的なミームコイン: X中心、高額外注

INMU: TAINME活用、低コスト、グローバル同時展開

物語性

一般的なミームコイン: 初期のミームのみ

INMU: 毎週の寄付報告、感謝の声、文化交流

持続性

一般的なミームコイン: 話題が尽きると崩壊

INMU: 3つの循環が永続的な話題を提供

コミュニティ

一般的なミームコイン: 投機目的のみ

INMU: 社会的意義と文化的つながりを共有

独自性

一般的なミームコイン: 模倣可能

INMU: 複合的エコシステムで模倣困難

収益源

一般的なミームコイン: トークン価値のみ

INMU: 企業PR報酬という別の柱

INMUだけが持つもの:

1. 永続的な新規市場開拓(動物保護界)
 2. 実用的収益源(企業PR報酬)
 3. 物語の自動生成(毎週の寄付、感謝の声)
 4. グローバルワーカーコミュニティ(TAINME)
 5. 多文化交流プラットフォーム
 6. 3つの循環が互いを強化する自律的成長
-

12. トークノミクス

透明性と持続可能性

トークン名: INMU

ブロックチェーン: Solana

コントラクトアドレス(CA):

4FDtAagigMuFcPp36rbd9bzcYTJgQah2qLMYcYtfpump

総供給量: 10億枚

バーン: 計画的にバーンにより総発行量は減少中(現時点で9億7500万枚)

Solscan:

<https://solscan.io/token/4FDtAagigMuFcPp36rbd9bzcYTJgQah2qLMYcYtfpump>

ラグプル防止の具体的施策

運営の明確な宣言:

・運営は保有コインで流動性提供を実行

- ・資金ロックを実施
- ・ラグプルを行わないことを明言

透明性の確保:

- ・すべてのトランザクションはSolscan上で検証可能
 - ・定期的な報告
-

13. コミュニティと公式情報

13.1 公式リンク

公式ウェブサイト:

<https://810.inmucoinofficial.workers.dev/>

X(旧Twitter):

<https://x.com/inmucoin>

Telegram:

<https://t.me/inmucoin>

DexScreener:

<https://dexscreener.com/solana/df5jwtxiypsp4lqrtq7fxqezxehi23zkderuimk8kwyn>

13.2 コントラクトアドレス(CA)

正規コントラクトアドレス:

4FDtAagigMuFcPp36rbd9bzcYTJgQah2qLMYcYtfpump

Solscan:

<https://solscan.io/token/4FDtAagigMuFcPp36rbd9bzcYTJgQah2qLMYcYtfpump>

14. 結論: バカみたいな夢だからこそ

810M MC、野獣先輩にふさわしい目標へ。

ミームコインに、現実的な目標など不要だ。

810M MC = 野獣先輩(やじゅう)

この馬鹿げた目標に向かって、誰も成し遂げたことのないエコシステムを構築する。

動物を救う。

毎週金曜日の寄付活動は、永続的に続く。小規模な寄付から始まり、最終的には動物保護界の中心的存在となる。私たちの寄付がきっかけで、他からも寄付が集まる。影響力を持つ。

人を救う。

TAINMEは、経済的に困難な状況にある人々へのセーフティネットとなる。スマホ1つで、5ドル、10ドルを稼げる機会を提供する。「子供にプレゼントを買えました」「薬を買えました」という感謝の声、私たちが動かし続ける。

世界を繋ぐ。

世界中のホルダーが、自国のサブカルチャーを紹介し、他国の文化を楽しむ。言語の壁を越えて、笑いと発見が共有される。INMUコミュニティは、世界最大級の多文化交流プラットフォームとなる。

そして、ホルダーは飽きない。

毎週金曜日の寄付報告。世界のどんな人から感謝が届くのか。どんな企業とコラボするのか。どんな新しい文化に出会えるのか。

来週はどんな展開が待っているのか。

バカみたいな夢を、諦めずに抱き続けることができる。

これがINMUだ。

笑われるくらいの夢を、本気で追いかける。

810M MCへ、共に歩もう。

2026.02.04

INMU-DEV